



ことばの音に気が付く力 ~音韻認識って?~

今回は第一回でも少し触れた、「ひらがな」や「発音」の基礎になる、ことばの音に気が付く力（音韻認識）を鍛える遊びについてご紹介します。発音が気になるお子さんへ Vol.2 でご紹介したお口の体操と一緒に取り組んでもらえると、発音の改善にも役立つと思います。

●音韻認識とは

ことばが音の組み合わせで出来上がっていることに気が付き、操作する力のことです。正しい発音の習得や、ひらがな学習のベースになる力で、たとえば「たまご」という言葉が「た」「ま」「ご」の三つの音で構成されていて、最後の音は？と訊かれた時に「ご」と言える、といった力のことです。



●モーラ（拍）について

モーラ（拍）は話し言葉のリズムの単位です。「たまご」→「た」「ま」「ご」のように、日本語のことばは、一音ずつモーラ（拍）に分けることができます。日本語では、1モーラにかな1文字が一对一で規則的に対応する関係があり、日本語の文字学習ではモーラ単位の音への気づきが大切です。



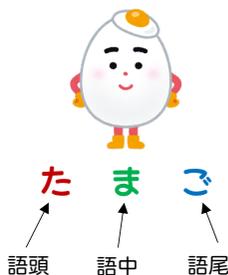
●かな文字習得に必要な音韻認識と大体の獲得年齢

○音韻分解（ことばを一音ずつわける力）

例：「たまご」を、「た」「ま」「ご」と一音ずつに分けられるなど。
獲得時期：4歳後半ごろ

○音韻抽出（ことばの中から特定の音を抜き出す力）

例：「たまご」の最初の音が「た」であることがわかる。
語頭→語尾→語中の順番を意識するのが難しくなります。
獲得時期：語頭・語尾（4歳半）、語中音抽出（5歳前半）



< 参考 >

大伴潔,大井学.特別支援教育における言語・コミュニケーション・読み書きに困難がある子どもの理解と支援.学苑社;2011
玉井ふみ,深浦順一.標準言語聴覚障害学 言語発達障害学.医学書院;2010

< おすすめの本・教材 >

梅田真里.特別支援をサポートする読み・書き・計算指導事例集;ナツメ社 2016
村井敏宏,中尾和人.読み書きが苦手な子どもへの<基礎>トレーニングワーク;明治図書 2010

●音韻認識を高める遊び

○すごろく（4歳後半ごろ～）

サイコロの出目の代わりに、単語の長さですごろく。

こどもさんの好きなものを貼ってあげたり、カードを引くタイプにしても楽しいです。

音韻分解が苦手なお子さんには、まずは短めで、特殊音節の入っていない単語で取り組ませてあげるとよりわかりやすいです。



※すごろくの盤面はちびむすドリル (<https://happyilac.net/kisetsu-sozai.html>) さんからお借りしています。

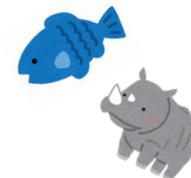
○階段ぐりこ

「ぐりこ」「ばいなつぷる」といながら階段をのぼるなど、準備要らずで音韻分解を体感できる懐かしのあそびです。

○ことば探し

例)「さ」のつく言葉あつめなど

語頭に目標音→ 語尾に目標音→語中に目標音 の順番に難しくなります。
言葉を思い出すのに困ってしまうおさんは、絵本や図鑑の一ページの中や、お部屋の中で探してみても楽しいかなと思います。



○しりとり（5歳ごろ）

しりとりを理解には、語彙の力の他に、語頭と語尾の音の抽出ができる力が必要です。言葉を思い出すのが難しい場合は、カードを並び替えたり、絵を用意してあげて順番に線をひけるクイズプリントのようにしてあげてもいいかもしれません。



○ことばを反対から言う（2文字程度）

例) ねこ→こね たまご→ごまた など、反対から言うとは何になるかのクイズを出し合う。
言われたことを覚えておく力も必要なので、結構難しいです。最初は2文字や3文字程度、難しそうであれば、イラストや絵本を見ながら取り組んだり、積木やビーズなど、目に見えるものを操作するなど視覚的なヒントをあげましょう。

～お子さんの好きなもの・キャラクターなどを活用して、楽しく取り組んでみてください～